

## ネットワーク

### がんばってまーす

#### 公害苦情に対する立場の難しさ

東京都荒川区環境清掃部環境課環境保全係

金田 聖博



荒川区は、東京都の北東部に位置する人口約 21 万人の区であり、印刷、金属製品製造、皮革、衣服等の生活関連産業を中心に、ものづくりの街として発展してきました。江戸時代からの伝統技術を今に伝える職人も多数存在しており現在も活躍をしています。最近では駅前周辺を中心とした再開発事業や木造密集地域の不燃化対策事業など、新たな街づくりが進められています。

23 区内で唯一の公営遊園地である「区立あらかわ遊園」をご存じでしょうか。小さな子供が楽しく遊べる施設でイベントも行われ、区の内外から沢山の家族連れが来園しています。

他にも最近はおもんじゃ焼きも全国的に有名になりましたが、荒川区は「おもんじゃ」の街としても賑わっています。区内には現在約 60 件のおもんじゃ焼き屋さんがあり、「おもんじゃはソウルフード」と言う人もいます。

荒川区では子どもの頃からおもんじゃ焼きが身近な存在なのに月島に比べ知名度が低いのは、お店が点在していて目立たないため、と言われていています。しかし、それぞれ特色のあるお店がそろっています。

そして私自身も驚いたことなのですが、あらかわおもんじゃは「土手を作らないのが流儀」と言う方も多く、この作り方についても諸説あるようです。

けれども「楽しければ作り方はこだわらない」という触れ合いとコミュニケーションこそが、こだわるべきおもんじゃの醍醐味だと思います。

また、区内には年々減少傾向にあります。またまだ沢山の銭湯（公衆浴場）があることも特徴の一つです。昔から銭湯は、子供からご年配の方まで幅広い層の人たちが集まる地域の憩いの場です。世代を超えた「裸のつきあい」の中で、大人たちは様々な話題を交わし、子供たちは親以外の人からも面倒を見てもらい、躰けられ、人としての関わり方なども自然と学ぶこともできます。

私は、平成 25 年度に新規採用職員として現在の部署に配属され、今年で 3 年目となりました。私の部署では主に公害関係を担当していますが、最近では空き地等の所有者を探し出し、雑草を刈るなど適正管理の実施を指導するような仕事も増えています。その中で、私自身が経験し、苦情対応の難しさを感じ、やりきれない気持ちになった事例をご紹介します。

私が配属 1 年目の時に、煙の臭いや黒煙が凄いという苦情相談の電話がありました。その電話は匿名で申立者からはマンションの住所しか教えてもらえず、「そこに行けば分かる。」と電話を切ら



荒川名物 おもんじゃ焼き

れてしまいました。匿名ではありましたが現場での状況を確認するため、すぐに現地へ向かいました。

するとその住所には高層のマンションが建っており、すぐ横には銭湯がありました。それは誰が見ても分かるくらい、風向きによっては銭湯からマンション側に煙が流れる位置関係でした。

煙の臭いや黒煙を出していると申立者が言う銭湯を訪問し、燃料として何を燃やしているのかなどの状況を、銭湯の主人から聞きました。臭いが強くでるような古タイヤや合板等は燃やさず、普通の木材のみを燃やしているとのことでしたので、燃焼管理をしっかりと行うように指導しました。その後も銭湯の主人から話を聞くと、すぐ近くにマンションが建つと、銭湯の煙がマンションに流れてしまうことが推測されるので、建設には当初から反対していたとのことでした。しかし、マンションは建設されたため、マンション住戸購入者に対しては付近に銭湯があることを必ず説明するように売主へ何度も言ったとのことでした。

このように、マンションの住民の方から煙の苦情があると、私たち区の職員としては銭湯の主人に煙の対応を考えてもらうよう指導することになります。先住・後住のどちらにも肩入れができない中立な立場をとらなければならない難しさと、銭湯の主人の気持ちを考えると私自身もやりきれない想いを非常に感じた事例がありました。この事例以外にも、先ほど述べましたもんじゃ焼きのお店に対する臭いの苦情も受けました。

現在の荒川区では、昔ながらの建物だけではなく、高層マンションが多く立ち並びつつあります。近代化は区にとっても良い事ではありますが、それに伴い、長年地域に親しまれてきた銭湯やもんじゃ焼きのお店が昔より肩身が狭くなっていることも確かです。今後も難しい相談が数多く寄せられることかと思いますが、区民が暮らしやすい「幸福実感都市あらかわ」を目指してこれからも多くの経験を積み、自身の糧にしている的確な苦情対応ができるよう努めていきたいと考えております。



区立あらかわ遊園



路面電車：都電荒川線車庫